



福島県 小学校長会 会報

- 巻頭言…………… 1
- 教育ニュース
「福島県教育委員会教育長
メッセージ」…………… 2
- 特集「たくましく生き とも
によりよい未来を創っていく
子どもの育成」…………… 3～6
- 支会だより…………… 7～10
- ふくしま人この道に生きる… 11
- 表彰・各部だより…………… 12



福島県小学校長会会長あいさつ

今、再び小学校長会の底力を

「危機」と「責任」と「希望」を共有して

福島県小学校長会会長 佐藤 秀美

各学校において、新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守るため、そして、社会を守るため、校長先生を先頭に懸命に取り組まれていることに心から敬意を表します。

このウイルスは人類の生命を脅かすと同時に世界の政治・経済を混迷に陥れ、教育にも甚大な影響を与えています。偏見や差別が顕在化している点も懸念されます。私たちは、子どもたちの健康と安全を守りつつ、いかに教育を保障していくかという極めて困難な課題に直面しています。

当初、「闘い」と表現されていた人類とこのウイルスとの関係は、今や「共存」という表現に変わってきました。「新しい生活様式」の提言や9月入学制度の検討など、アフターコロナの社会がどうなるのか、今はまだ五里霧中です。ただ間違いなく言えるのは、私たちは歴史の大転換点にいるということです。長期にわたる臨時休業が子どもたちに与えた影響は計り知れません。しかし、私たちは中

教審答申に述べられた「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を決して忘れてはならないと思います。

東日本大震災以降、本県を支援し続けてくださっている日本学校心理士会の石隈利紀会長さんは、震災当時、次の言葉を教えてくださいました。「当事者として、危機を共有しよう。援助者として責任を共有しよう。そして、共に生きる者として希望を共有しよう。」と。

再び訪れた未曾有の困難に際し、校長がリーダーシップを発揮し、的確な判断を下すためには、互いに知恵を出し合い、励まし合い、謙虚に学び合う姿勢をもち続けることが何より大切です。その最大の方がこれまでもそうであったように、これからも校長会でありたいと思います。「希望」を失うことなく、やるべきことを愚直に行っていきましょう。あの大震災と原子力災害から子どもたちと教育を守ることができたのですから、本県の学校には、そして校長会にはそれだけの底力がある。私はそう信じています。

〈令和2年度 福島県小学校長会第1回紙面理事会開催〉

福島県小学校長会の第1回理事会は、新型コロナウイルス感染予防のために、紙面での開催でした。会長として、福島市立福島第三小学校長 佐藤秀美氏が選出されました。また、新役員として次のとおり決定するとともに、本年度の活動方針などが承認されました。

●会長 佐藤 秀美 (福島 三)
●副会長 小島 英二 (三河 台)
菊池 篤志 (白河 一)
唐司 和彦 (鶴城)
午来 勝頭 (中村 一)

●監事 芳賀 徹 (石川)
伊藤 博子 (喜多方二)
水野 達雄 (平一)

教 育 長 メ ッ セ ー ジ

子どもたちが安心して学べる学校づくりを

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一



初めに、新型コロナウイルス感染拡大に伴う県内一斉臨時休業に際しましては、子どもたちの居場所の確保や学習支援、地域や保護者等との連絡・調整などに御尽力いただきましたことに心から感謝申し上げます。学校再開後も引き続き感染予防を徹底しながら、子どもたちの学びの継続に改めて御協力をお願いいたします。

さて、皆様も御存じのとおり、本県ではこれまで、ふたば未来学園での中高一貫教育や福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成など、福島ならではの未来創造型の教育を進めてまいりました。そしてこの4月には、本県で3校目となる義務教育学校のいたて希望の里学園が開校し、地域の特性を生かした教育も注目されています。しかし一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校現場では、臨時休業で実施できなかった教育活動のあり方、子どもたちの心のケアなど新たな課題を抱え、これまで以上に子どもたちに寄り添ったきめ細かな対応が求められています。

そこで現下の状況を踏まえ、県教育委員会としましては、引き続き、国や市町村、関係機関等とも手を携え、「頑張る学校応援プラン」に掲げた主要施策をより一層推進することで、子どもたちが安心して、心を動かしながら主体的に学び続けることができるよう支援してまいります。

特に、主要施策1「学力向上に責任を果たす」については、新しい時代の学びに対応するためのICT環境の整備を進めるとともに、新たに作成した指導資料「ふくしま・イングリッシュ・コンパス」の活用や小中学校合同研修等により、小学校の英語教科化に対応してまいります。

また、主要施策2「教員の指導力、学校のチーム力の最大化」につきましては、スクール・サポート・スタッフの増員を始め、「教職員多忙化解消アクションプラン」に掲げた取組を推進し、教職員が子どもと向き合う時間や自己研鑽する時間の確保に努めてまいります。

さらに、主要施策5「学びのセーフティネットの構築」につきましても、スクールカウンセラーの配置や不登校への対応として専任の教員を配置したスペシャルサポートルームの設置を継続するなど、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境づくりを進めてまいります。

皆様におかれましては、これらの取組を各校の実態に応じて効果的に活用し、家庭や地域と密接に連携しながら特色ある教育活動を推進するとともに、業務の効率化や学校のチーム力の最大化を図りながら、子どもたちが安心して学び、保護者が信頼して子どもを預けることができる学校づくりに取り組まれますようお願いいたします。

結びとなりますが、皆様が校長としてのリーダーシップを存分に発揮し御活躍されることで、本県の教育が益々充実するとともに、福島県小学校長会が更に発展されますことをお祈りいたします。

伊達 コミュニケーション能力を育む「つなぐ教育」を目指して(小中一貫校の取組)

伊達市立月館学園小学校 佐々木 透

1 はじめに

本校は、この4月に伊達市最初の小中一貫校として開校しました。市教育委員会の指導のもと、小中一貫ならではの教育活動の実現に向け「英語教育」「ICT教育」「地域教育」の3つをコンセプトに掲げています。教育目標である「未来を拓く、人間性豊かで心身ともにたくましい児童生徒の育成」を目指して、コミュニケーション能力を育む「つなぐ教育」をスタートしたところです。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

(1) 3つの柱によるコミュニケーション能力の育成 ～月館学園学校経営・運営ビジョンより～

- ① 9年間の連続した英語教育
 - 系統的なカリキュラムによる授業実践
 - A L T常駐による外国語教育の充実
 - タブレットP Cと電子黒板を活用したコミュニケーション活動
 - スクールコミュニティとの連携
- ② I C T機器を活用した先進的な学び
 - 一人1台タブレットP Cを活用した授業実践
 - 全教室への電子黒板（デジタル教科書）の設置と活用
 - I C T支援員常駐による授業支援
 - ツールの活用に向けた教員研修の充実
- ③ 地域のよさを学ぶ「ふるさと学習」
 - 学校と地域をつなぐ体験学習
 - 地域素材の教材化
 - 幼児との交流や地域の伝統行事への参画
 - スクールコミュニティの授業支援と連携



電子黒板の活用に向けた研修

(2) 見方・考え方を働かせながら、学びをつなぐ子どもの育成 ～現職教育研究テーマより～

① 教材とつなぐ過程（1年次）

子どもが教材と出会って自己の考えをもち見方や考え方を働かせて課題を解決する主体的な学び

- 問いや思いを引き出す教材との出会い
- 問いや思いをもとにした課題の焦点化
- 生活体験や既習事項と関連づけた学びと見通しのもとせ方

② 友達とつなぐ過程（2年次）

自分の考えをもとに、交流や話し合いを通してねらいにせまったり、考えを共有したり比較検討する対話的な学び

- 思考内容や思考過程の可視化
- 視点にもとづく友達の考えとの比較検討
- 考えや話し合いを共有する板書の工夫

③ 自分とつなぐ過程（3年次）

子どもが学びを実感し、振り返りを通して教科特有の見方・考え方や友達の考え方のよさを自覚する深い学び

- 練り上げと思考のコーディネート
- 一貫性のあるまとめと学んだことの実感
- 本時の振り返りと新たな学びの価値付け



タブレットP Cを活用した授業

3 むすびに

本校は、月館の子どもたちのための学校づくりを願う地域の声広がって開校した学校です。その期待に応えるべく、与えられた教育資源を有効活用し、学びをつなぎながら「質の高い教育」の実現に向け、試行錯誤を繰り返す日々です。同時に、しなやかに生き抜く力を育てるためには、「子どもに向き合う教員の熱意」と「教職員の資質向上」がキーワードと考え、地域の宝である子どもの学びをサポートできる学校を目指しています。

安 臨時休業中の学びを、どう保障するか 達 ～「家庭学習シート」作成の取組を通して～

二本松市立二本松南小学校 佐藤 則之

1 はじめに

新型コロナウイルス感染防止により3月初めから臨時休業の措置がとられた。当初、市内各小学校ごとに、学びの保障の視点から先生方が知恵を絞り、未履修の学習内容を補充するための方策や既習内容を確実に定着させるための方策を練り対応してきた。また、家庭訪問や電話による健康状態・学習への取組状況把握などを保護者と連携を図りながら行い新学期を迎えた。しかし、新学期が始まり再度臨時休業となると、子どもたちの新たな学年での学びをどう保障するかが喫緊の課題となった。

2 未来を担う子どもの育成

臨時休業が長引き家庭で過ごすことが多くなった子どもたちが、前学年の復習のみの学習を続けるには限界がある。また、各学年の子どもたちが、学校が再開された時にできるだけスムーズに学校生活のリズムに戻れるようにするため、さらには学校再開後、十分に補充の時間をとることができないであろうと推測される現状では、学年の指導計画に従い、少しでも家庭で学習内容を先取りしながら自学自習する必要があると考えた。当然、保護者の理解と協力が不可欠となり、それに対する学校側のサポート体制を整えることは言うまでもない。

そこで、二本松市教育委員会と市校長会が連携し、「家庭学習シート」作成委員会を組織し臨時休業中に子どもたちが取り組むことができる学習シートを作成することとした。

(1) 作成のねらい

- 臨時休業の長期化や児童生徒の出席停止、感染症の不安により登校できない等により、児童の学習が十分に保障できないことや、学校において学び直しをする機会が確保できないことから、家庭学習シートを作成する。

(2) 作成の方針

- ① 家庭学習シートは、各学校の作成の負担を軽減するために、市の作成委員会で作成する。

- ② 児童の自己マネジメント力の育成を図ることができるよう、家庭学習の時間割表とセットで活用する。

- ③ 児童の家庭学習において、学習を完結できることを基本とする。

(3) 「家庭学習シート」の活用の仕方

- ① 学校生活に合わせた時間割での取組

- 各学年ごとの学習時間割表を配付し、時間割に沿って学習を進める。
- 授業と同様に、45分を基本に学習する。
- 観察や運動など、家族の協力が必要な学習の場合には、家族の協力できる時間帯や期日に時間割を変更して実施するよう依頼する。

- ② 「家庭学習シート」での自学自習

- 復習プリントではない、授業の代わりとして活用する学習シートとする。
- 1時間（45分）に1枚のシート活用を基本とする。
- シートに記されている課題に沿って、教科書を使いながら学習を進める。学年や教科により、資料集や辞書など、他の学習教材を組み合わせる学習に取り組んでもかまわない。
- ノートやドリル、ワークブック、テレビ視聴等の指示がある場合はそれに従う。



家庭学習シートの一例



学習時間割表

小学校において作成した

シートは、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、

図画工作、家庭、体育、外国語、特別支援の11種類である。当面5月中旬まで使用できる家庭学習シートを作成した。

3 むすびに

家庭学習シートによる取組は、現在進行形である。今後「指導計画を踏まえた課題」への取組をどう見取り評価していくか、その適切な評価と補充のための指導をどう組み合わせしていくか、学校再開へ向けた課題は山積している。

郡山 ふるさとから学ぶ生きる力 ～地域との豊かな関わりを通して～

郡山市立安子島小学校 光井 淑恵

1 はじめに

本校は郡山市の西部にそびえる安積山の麓に位置し、水と緑に囲まれた豊かな自然環境の中にあります。市街地よりやや離れた市街化調整区域であり、児童数の減少は避けられない課題ですが、学校・家庭・地域の連携は大変深く、まとまりのある学校です。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 地域と連携した特色ある活動

① 自然からの学び

…「すくすく水田」活動・「梨」探検隊

地区婦人会や老人会などの地域の方々や、JAやJA婦人部、県中農林事務所など関係機関の方々や保護者にお世話になりながら進めている全校生による稲作活動「すくすく水田」の取組は、今年度で23年目です。この活動では、地域の方々と一緒に「種まきから田植え、草取り、稲刈り、収穫、そして収穫祭」と稲作の一連の取組を通して、「地域の絆」を深めています。活動は全校生が縦割り班を組んで、上級生が下級生の面倒を見ながら、進めています。



5月田植えの様子・・・慣れた手つきで

東日本大震災の時には、「食の安全」への配慮から中止の声もありましたが、「実際の活動ができなくても何か役立つことをしたい」という児童の思いから、「案山子作り」を行うなど、その年ごとの児童の思いを大切に取り入れ、活動を進めています。また、県内でも有数の梨の名産地であることから、地域の果樹園での「受粉作業、摘果作業、収穫、選果場見学」の体験活動も充実しています。

② 社会からの学び

…安子ヶ島駅「花いっぱい活動」

平成8年から20年

以上に渡って、最寄りの安子ヶ島駅の清掃活動や緑化活動を行っています。種から育てた花々を駅に飾ったり、無人駅の



今年もきれいに咲きました清掃をしたりしています。地域の方々からも喜んでいただき、児童の奉仕的な気持ちが育っています。

③ 人々からの学び…地域人材活用

毎月行われる保護者の本の読み聞かせ、地域の神社の宮司さんを講師にした雅楽教室や人権委員さんが参加する道徳科の授業、保護者と地域の方々が教えてくださる冬のスケート教室、年間を通した稲作や作物の指導なども含め、あらゆる場面で地域の方々が児童の応援団になっています。

(2) 教科を横断した教育課程の編成

稲作活動では、1・2年生の生活科、3年生以上の総合的な学習の時間を軸に、国語科、社会科、理科等横断的視点から教育課程を編成し、効果的な学習活動が展開できるように工夫をしています。昨年度は、「水中生物を調べたい」という児童の思いが、理科の「生命の学習」に、「田んぼの水はどこから」という疑問が社会科の「安積疎水」を学ぶ学習につながり、児童の主体的な学びへとつながっています。児童の実態と教育目標に応じた授業計画を作り出すことで、児童の主体性を引き出し、知識や技能にとどまらない、生きるための思考力や判断力、表現力が育成されることを願い、全職員で検討し、指導の効果を確かめながら、教育の質的な向上に努めているところです。

3 むすびに

自分たちの住む地域が大好きで、素直で、純朴な児童が、温かな地域の方々とのふれあいを通して、様々なことを学び、体験し、これからの激動の時代を生き抜くために、たくさんの「できた」喜びを実感させ、自信をもたせ、学び続けようという気持ちを育てる学校づくりを進めていきたいです。

岩
瀬

「子どもを真ん中にした教育」の実践

須賀川市立西袋第一小学校 星田 弘美

1 はじめに

岩瀬支会三市町村が同じ状況ではないが、令和2年度のスタートは、学校現場がこれまでに経験したことのない“先の見えない臨時休業”という事態で幕を開け、1ヶ月以上の学習活動の遅れを余儀なくされている。奇しくも新学習指導要領の全面実施を迎えた今年。各学校においては、教育課程の見直しや失われた授業時数の確保に努め、すべての学習内容が未履修にならないよう対策を講じることが喫緊の課題である。

2 未来を担う子どもの育成のために

(1) 須賀川市の学校教育の考え方

須賀川市では「子どもを真ん中にした教育」という教育理念があらゆる教育活動において意識づけられ、活動の基盤となっている。

(2) 市内全小・中学校における「小中一貫教育」の推進

須賀川市では、2014～2018年度の5年間で第Ⅰ期「基盤形成期」として、2019～2023年度の5年間で第Ⅱ期「活動実践期」と位置づけ、「小中一貫教育」須賀川モデルを推進している。

第Ⅱ期の進行目標を「小中一貫教育のメリットを最大限に生かした教育活動の展開」とし、具体的には、

- ① 9年間の子どもの学びと育ちに教師が責任をもつ学校づくり
 - ・ 授業と授業研究を最優先にした学校づくり
 - ・ 系統的なキャリア教育、ふるさと教育の推進
 - ・ 小中教員同士の相互交流研修と子ども理解
- ② 保護者と地域が一体になった教育活動の推進
 - ・ 合同学校評議員会の開催（コミュニティ・スクール実施に向けた準備）等

を掲げ、各学校では、それぞれの中学校区のランドデザインに基づく一貫した教育活動の実施と評価・改善に取り組み、特色ある教育活動を展開している。なお、活動の財政的支援とし

て、須賀川市教育委員会から、小中一貫教育の推進のための予算及び各小中学校が独自に展開している特色ある教育活動のための予算が、それぞれの実践計画に基づいて各中学校区及び小中学校に交付金として配当されている。



西袋中学校区 三校教員交流研修

これらの取組を全小中学校を挙げて「児童生徒の自尊意識を高め、一人一人の個性を伸ばし、生きぬく力を育成する」ことを目指している。

鏡石町では、目指す児童生徒像を『「かわる・かがやく，“牧場の朝”のまち かがみいし」を担う子ども』と位置づけ、「鏡石町子どもパワーアップ大作戦！」と称し、幼小中連携の強化と発達段階に応じた大人の子どもの関わり方を明確にした取組、さらには「生涯学習としてのキャリア教育」として、幼児期の教育から高等教育に至るまでの体系的なキャリア教育の推進にも取り組んでいる。

また、天栄村では、「村はひとつ、学校はひとつ、願いはひとつ、地域コミュニティを核とした天栄だからこそできる少人数教育」を基本理念として、「天栄型コミュニティ・スクール」や「愛村心を育むふるさと教育」、「英語の村てんえい」や「つなぐ教育（幼小中連携）」の実践に積極的に取り組んでいる。

3 むすびに

「未来を担う子どもの育成」を考えたとき、学習面だけではなく、「学びの基盤づくり」が大切になる。共に学び、高め合う学習集団づくりを目指す中で、教師と子ども、子ども同士の人間関係づくりや居場所づくりに意を注ぐことにより、より広義的な学習集団づくりが可能になると考える。

郡 今年度の活動に向けて

郡山市立大成小学校 柳沼 啓之

1 はじめに

本支会は、昨年度2校が閉校し、義務教育学校2校を含む51校、会員は、51名で組織されている。様々な教育改革が進む中、会員が直面する課題についての協議の場や時間を確保し、課題を共有し、その解決を目指して活動している。

2 本年度の取組**(1) 研究の推進**

本年度は、令和2・3年度の2年間の研究のはじめとなる。各校の実態に応じて「校長の在り方」に視点を当て、組織的・継続的な研究を進め、各校の課題解決に寄与する校長としての取組を行っていく。

(2) 方部研修会

市内5方部に分かれての小・中学校合同の研修会を開催する。その中で、各学校の課題とその対応策や小・中学校の連携のあり方などについて協議し、実践する。

(3) 特別研修

校長としての資質・力量の向上をめざして、外部講師を招聘する研修を年1回開催する。

(4) 人材育成

管理職の大量退職を迎え、人材育成は急務となっている。中学校長会と連携し、管理職を目指す教員対象の研修会を実施する。

(5) 情報の発信

本支会のホームページによる校長会の諸活動・諸事業等の情報発信、さらには本支会の広報誌「きずな」の刊行及びホームページ掲載など、積極的な情報の発信に努める。

3 むすびに

東日本大震災から10年目を迎えるが、安全安心の環境づくりは継続して進める必要がある。さらに、今年度は、コロナウイルスの感染防止という学校が取り組むべき新たな課題が突きつけられ、「新しい生活様式」の中で、学校として取り組むべきことなど、今後も保護者や地域と連携しながら、子どもの命を守ることを最優先とし、安全安心な学校教育の推進に努めていく。

働き方改革や、新学習指導要領全面实施による課題はあるが、緊急事態・臨時休業による教育課程の変更を踏まえ、限られた期間で学校をどう運営するか、知恵を出し合い全力で乗り切りたい。

石 小規模の強みを生かし

川 玉川村立玉川第一小学校 酒井 修三

1 はじめに

一昨年の浅川町の小学校統合により石川支会の校長会は、9名という少ない会員数で組織されている。会員一人一人が複数の役職を兼務する厳しい状況ではあるが、会員相互の絆は強く、情報の共有や相互理解を図り、密接な連携を保ちながら活動している。今般の感染症防止の関係上、活動内容の制限や方法の見直しを図りながら、できる範囲での運営を心がけたい。

2 本年度の取組**(1) 地区研修会**

今年度も「学校運営上の諸問題」について、各校の問題提起を受けた話し合いの場を設けていく。特に教育界における今日的な課題である、「多忙化解消に向けての取組」「特別支援教育の現状や課題」や「英語教育の在り方」等に視点を当て、小グループに分かれての研究協議を進める予定である。

(2) 分科会研修

分科会研修を第5-2（環境教育）に絞って取り組む。初年度の研究であるため、アンケートの実施やそれらの結果をもとに、各校や地域の現状を会員全体で共有し、課題を明らかにすることで、より具体的な実践の在り方を模索したい。全会員が進めることで、内容の濃い充実した研修となることが期待できる。

(3) 確実な引き継ぎと人材の育成

今年度末での退職予定会員が9名中5名と半数以上を占める。校長会のこれまでの取組の引き継ぎを確実なものとすると同時に、内容の見直しや新しい校長会の在り方を創造するよい機会と捉え、校長会の改善を図っていく。

また、地区においての地元出身の教員の絶対的な数の不足や管理職希望者の減少などの現状を踏まえ、中学校長会と連携した組織的な人材の育成に力を入れていきたい。

3 むすびに

今般の感染症問題では、小規模の強みを生かした速やかな現状の把握や共通理解を通し、連携を密にした迅速な対応ができてきている。

各校間で日常的に情報を交換できる雰囲気は今後も大切にしながら、子どもたちのために一丸となって石川の教育を推し進めたい。

田 今年度の活動に向けて

村 田村市立瀬川小学校 湯淺伸二郎

1 はじめに

本支会は、1市2町の18名の会員で組織されています。小野町においては、小野新町・飯豊・浮金・夏井第一の4校が統合し、小野町立小野小学校がスタートしました。

会員数が年々減少していることもあり、複数の役職を兼務する状況となっていますが、会員相互の連携と情報共有で、教育課題解決に向け活動しています。

2 本年度の取組**(1) 研究の推進**

新しい研究主題のもと、危機管理や防災教育、教育課程について研究を進めています。専門部の研究部が中心になって推進し、前年度からの引継ぎも確実に行いました。

次年度の東北連小での発表を視野に入れ、今年度は、支会内で発表会を催し、さらに研究を深める予定です。

(2) 地区研修

今年度から1回減らし、年間4回の研修会としました。県教委の事業やコミュニティスクール、小中一環教育など学校経営の取組について、中学校長会とも連携しながら進めます。

(3) 各専門部会

行財政、研究、広報、生徒指導の4専門部を設けて活動しています。

行財政部や生徒指導部では、県全体の調査結果も示すことで支会外の情報提供に努め、研修に役立てています。

広報部では、「広報田村」を年3回発行します。会員相互の情報共有を図るとともに、これまで、支会内の教育長・教育委員・退職校長会長さん方などにも執筆いただき、校長として考えるべき視点等も示唆していただいています。

(4) 人材育成への取組

中学校長会とも連携し、採用試験や昇任考査に向けての実務研修を進めます。管理職希望教員増に向けた働きかけにも努めます。

3 むすびに

田村の子どもたちのよりよい変容に向け、コロナ対応も含めた諸課題に対して積極的に向き合い、組織的に研鑽を深める校長会を目指します。

し
東
ら
か
わ
西**統合して3年目~より強固な結束を~**

白河市立白河第一小学校 菊池 篤志

1 はじめに

東西しらかわ支会は、東白川支会と西白河支会が統合して3年目となる。今年度は、新任者7名を含む新会員13名を迎え、新体制がスタートした。本会は、過去2年間、統合したばかりとは思えない強い団結力で、様々な課題を解決してきた。今年度は、この2年間の改革の検証や新学習指導要領全面実施の対応、コロナウイルス感染防止対策など、これまでの結束力を更に強化して校長会運営を進めていかなければならず、校長会の真価が問われる年度となる。

2 本年度の取組**(1) 昨年度までの改革の検証と今後の改革**

統合後の組織固めと並行して様々な改革をしてきた。特に、40年以上続けてきた陸上競技会については、他の大会が多くあること、陸上競技会に向けた各校の取組の負担が大きいこと、運営にあたる人員の確保が難しいことなどの課題を解消する目的で廃止した。今年度は、生み出した時間を、新学習指導要領対応をはじめ様々な取組の充実に向けられているか、分析・検証をしていかなければならない。

また、今後の小教研の東白川支会と西白河支会の統合、音楽会の運営等についても指針を明確にしていかなければならない。

(2) 新学習指導要領全面実施対応

改訂の趣旨、内容を踏まえ、今年度の取組状況を支会として情報共有し、より円滑な実施に向けて協議する場をもちたい。

(3) 新型コロナウイルス感染防止対策

学校再開後も、各校において、3密対策を基本とした教育課程を実施していかなければならず、行事の改廃等を含めた対応策についての情報共有の場としていきたい。

(4) その他

自然災害等の対策に向け、行政と学校の防災体制の在り方について協議する場をもつ。

3 むすびに

第1回の研修会を中止し、次回開催についても検討中だが、様々な手段を駆使して支会の情報を共有し、よりよい学校運営が実践できるよう、県南は一枚岩となって結束を更に強めていく。

北
会
津

今年度の活動に向けて

会津若松市立松長小学校 小林 義弘

1 はじめに

北会津支会は、1市2町27名の会員で構成されている。今、感染が拡大している新型コロナウイルスの感染症対策に取り組みながら、児童の学習を保障し、児童が安全に安心して学校生活を送れるよう、会員一丸となって活動している。

2 本年度の取組

(1) 協議会・研修会での取組

- ① 年3回の協議会を開催。例年だと小中合同で開催し、研修会や相互の情報交換を通して校長としての資質向上を図っているが、今年度はコロナ対策として小中別開催にし、3密を避けるなど、感染防止に努める。
- ② 喫緊の課題（コロナ対策、新学習指導要領完全実施、地域と共に歩む学校づくり、教員の働き方改革、人事評価制度の充実、特別支援教育の充実）について、各会員が共通理解のもと実践と情報交換を行う。

(2) 専門部会での取組

- ① 行財政部では、会津小中学校長会連絡会と行財政部長合同会議を開催し、会津・南会津4支会の行財政上の諸課題解決と連絡調整を行う。
- ② 広報部では、広報「北会津」を年3回発行して、会員の相互の交流・親睦を図る。
- ③ 生徒指導部では、県の生徒指導調査に係る支会としての現状と課題をまとめ、課題解決に向けた情報交換等を行う。
- ④ 研究部では、県小学校長会の研究主題に基づき、次年度の東北連小に向け、班別研修や研修会の場を使って、研修を深める。

(3) 中学校長会及び退職校長会との取組

- 小中学校長会と退職校長会との合同研修会を秋に開催し、講演と情報・意見交換で、校長としての見識を高める。

3 むすびに

先が見えず、不安を抱えている児童、保護者、そして教職員。私たちも不安ではあるが、校長会が組織を生かし、連携を図りながら力を合わせて取り組み、きっとこの難局を乗り越えることができる。「不安」を「安心」に変えることができるよう、活動の充実に努めていきたい。

耶
麻

今年度の活動に向けて

喜多方市立第二小学校 伊藤 博子

1 はじめに

本支会は、喜多方市、西会津町、北塩原村の20名の会員で組織されている。今年度は、9名の新しい会員を迎えた。新たな組織で令和2年度のスタートを切ったところである。

2 本年度の取組

(1) 校長としての資質向上

年4回の研修会を通して、校長としての研鑽を積んでいく。学校関係者及び外部講師の話を通して、様々な視点から学校経営を見つめなおす場とする。また、各校の課題・対策等の情報交換を行い、よりよい学校運営の在り方を考えていく。

(2) 研究の推進

令和3年度の福島県小学校長会研究協議会福島大会（東北大会）を見据え、各班ごとに研究を進めていく。「危機対応」は発表支会、「評価・改善」及び「研究・研修」は希望支会となるので、各校の実態を踏まえながら、「校長としての在り方」を研究していく。

(3) 人材育成

学校経営研究会で、次代を担う学校経営者を育成する。

(4) その他

復興に向けた課題及びその解決のための具体的取組については、今年度も浜通りの学校を視察したいと考えている。

また、8月には、退職校長会との研修会・懇親会を実施し、研修・親睦を深めていく。

3 むすびに

新型コロナウイルス感染症拡大により、教育活動の制限および日程の変更や諸活動の中止を余儀なくされている。本支会も研修会のもち方について試行錯誤が続いている。そんな中でも、校長として今、何ができるか、何をすべきなのかについて、会員で話し合い、知恵を出し合って、目の前の子どもたちの将来を見据えた活動を行っていききたい。

両 組 織 力 を 生 か し て

湯川村立勝常小学校 五十嵐喜浩

1 はじめに

両沼支会は5町2村14校の会員で組織している。広範囲な地区で、小学校数が1～2校という町村が多いのも特徴の一つである。今年度も14校の組織力を生かし、校長としての力量を高められるように努めていきたい。

2 本年度の取組**(1) 地域社会と連携した防災の実施**

- 地震、風水害などの自然災害や交通事故、不審者による事案等に対応できるように、行政当局や交通安全母の会、見守り隊等の関係機関・団体との連携を密にする。
- 顔合わせ会等の実施により、自校の防災に対する共通課題を明確にし、その解決に向けた取組を推進する。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

- 地教委との連携を密にし、感染防止への具体的な対応を協議しながら、学校差のない取組を推進する。
- 本支会校長会において、各町村・各校の実態、対応の仕方などを会議の中で話題として取り上げ、情報を共有しながら感染防止対策の方向性を考えていく。

(3) 校長の大量退職、人材育成面での対応

- 本支会は、令和2年度末退職予定者4名、さらに2～3年で他支会へ異動する校長がほとんどである。校長会研究など、様々な面での初任校長へのアドバイスと校長同士の横のつながりを強化していく。
- 学校経営研修会等、教員の研修の内容・方法等を改善しながら、ミドルリーダーを育て、管理職の育成に取り組む。

(4) 支会研究の充実

- 東北連小福島大会の発表支会として、県の主題、視点に基づきながら、支会の現状と課題を見つめた計画的・継続的な研究実践を推進する。

3 むすびに

日々刻々と状況は変わるが、新型コロナウイルス感染症に立ち向かい、これから会員の英知を結集し、組織一丸となって子どもたちの豊かな人間性の育成に努めていきたい。

南 今年度の活動に向けて

只見町立朝日小学校 米畑 健一

1 はじめに

南会津支会は、3町1村20名の会員で構成されている。令和元年度末の人事異動により新しく6名の会員が加わり、新しい体制のもとスタートした。人事の流れが速く、会員の交代も激しい本会であり、また新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限される中ではあるが、活動の充実と連携のさらなる強化を図っている。

2 本年度の取組**(1) 学校経営の充実**

- ① 学習指導要領の趣旨の実現を図る。
 - ・ カリキュラムマネジメントの実現と主体的・対話的で深い学びの推進
 - ・ 希望と生きがいを育む心の教育の充実
 - ・ 道徳科、小学校の外国語科・外国語活動の内容の研修と実践
- ② 南会津の自然や文化の特質を生かした教育活動の充実
- ③ 安全・安心な学校づくりに向けた今日的な教育課題と児童生徒の安全確保の問題の解決
- ④ 社会に開かれた教育課程実現に向けた家庭・地域社会との連携・協働の在り方についての実践と情報交換
- ⑤ 特別支援教育の充実に向けた、各関係機関と連携及び研修の実施

(2) 教育諸条件の整備

- ① へき地・小規模校の多面的な状況理解に努め、教育の安定性・継続性の確保に努める。
- ② 支援員の各学校配置や特別支援学級の新設に向けた働きかけなど、特別支援教育に関する環境の整備に努める。
- ③ 働き方改革の趣旨を鑑み、校務の効率化・合理化により多忙化の解消に努め、働きやすい職場環境を整えていく。

(3) 組織活動の充実

- ① 中堅教員や講師等の研修を奨励し、郡内教員の人材育成に努める。

3 むすびに

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、前例に頼ることのない新しい支会の運営の仕方、研修の進め方について考えていくことが必要になっている。この難局を乗り越えるため、校長会一丸となって邁進していきたい。

伝統を守るために新しい技術がある

野沢民芸作品製作企業組合代表理事 早川美奈子さん

伝統的民芸品である張り子の「赤べこ」「起き上がり小法師」、新しい民芸品（アートとしての民芸品）である「起き上がりムンク」「ウルトラマン小法師」などの作品を製作している野沢民芸作品製作企業組合の代表理事、早川美奈子さんに話を伺いました。



ー野沢民芸で大切にしていることを教えてください。ー

組合が始まったのは55年前ですが、それ以前はこけし工房でした。現会長（父）が赤べこに着目し、こけし作りから張り子作りを始めました。大切にしていることは、人と人のつながりや仕事をしていることへの感謝の気持ちを忘れないこと。また、商品としてお客様に誇れるような作品を作るために、クオリティーを磨くと同時に、仕事にプライドをもち続けることです。

ー伝統民芸品をアートとしての民芸品にアレンジしようと思ったきっかけはどんなことですか。ー

入社して38年経ちますが、そのうちの半数の年月は、伝統的な民芸品作りを行っていました。伝統を守るといって、デザインを変化させないことでしか自分の絵を描くとかできない業界だと思っていました。

自分の作品を作り始めたのは、東日本大震災がきっかけです。それまでは、自分の作品を民芸品で作れるというステージがあることを知らなかったし、市場の中にもありませんでした。また、そういうものを作ろうとしても、売ってくれる人もなく、置いてくれる店もないため、会社の経営方針にもありませんでした。東日本大震災をきっかけに、周りから「新しいことをしませんか」「新しいものを作りませんか」の声がありました。私も民芸品をこれまで作っている中で、「こんなのがあったらいいな」と頭の中で考えていたことがありましたので、そういう声をいただいた時に自分の思いと合致しいろんな作品を作り、バイヤーさんに見ていただきました。すると、すぐにその反応が返ってきました。そこから、少しずつ新しい作品を売っていただく間口が広がっていきました。

ー作品を作る上で心がけていることはどんなことですか。ー

買ってくださいました方、贈られた方が、作品を見て元気になるとか、勇気づけられるとかという思いをもっているだけのデザインを心がけています。伝統は、未来になって伝統といっているだけで、伝統の根っこは新しいことだと思っています。それを続けて伝統になっていると思います。伝統を守るために新しい技術があります。また、一つ一つの民芸品には、昔から云われや、作られた時代の人々の思いが込められています。そのことをしっかり守りながら新しいものを作っていきたいと考えています。

ーアートとしての民芸品を作っていく上で苦労したこと、工夫していることはどんなことですか。ー

作品はすべて手描きであり、1個描けばよいということではなく同じクオリティーで何百も描かなければなりません。手描きなので1個1個違いますということに甘んじてはいけなと思っています。買い手の望むクオリティーにできる限り近づけていかなければならないと考えています。

ー野沢民芸をどのように守っていこうと考えていますか。ー

新しい作品を作るとき、自分の技術にプライドをもってやっている職人さん全員の判断を仰ぎます。8割の職人さんの賛同が得られなければ出しません。自分のデザインだけをゴリ押しするということはしません。自分がいいと思う作品だけを作るのであれば、芸術家であればいいのであって、民芸品なのでいろんな人が見ていいと思うものを作らなければならないと考えています。今後も、職人さんを頼り、信頼し、任せていきたいと思っています。さらに、その時々、どこに重点を置き、どこに向かっていかなければならないかを常に考えていかなければなりません。伝統を守ると同時に、新しい民芸品作りにも今後も挑戦していきたいと思っています。



起き上がりムンク

プロフィール

- 入社して38年
- 昨年、代表理事を父（早川豊琳さん）から受け継ぐ。
- 「起き上がりムンク」「ウルトラマン小法師」等、伝統民芸品と他業界とのコラボレーションを行う。

春の叙勲

～おめでとうございます～

令和 2 年の「春の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。なお、規定により祝電をお送りいたしました。

☆瑞宝双光章（2 名）

村上 光市 様 元郡山市立橋小学校校長
二瓶 哲 様 元福島市立福島第二小学校校長

令和 2 年度 小学校長会役員

◎支会長 ○常任理事

職 名	氏 名	勤務校
会 長	佐藤 秀美	福島三台
副 会 長	小島 英二	三河台
	菊池 篤志	白河一城
	唐司 和彦	鶴城
監 事	午来 勝顕	中村一
	芳賀 徹	石川
	伊藤 博子	喜多方二
支 会 長 ・ 理 事	水野 達雄	平一
	◎小島 英二	三河台
	福 島	福 島 一
	◎二階堂 康男	梁川
	伊 達	高野 孝男
	◎岩 渕 孝之	杉田
	安 達	◎佐藤 則正
	郡 山	◎大和田 正恵
	酒井 勝弘	橋
	◎佐藤 勉	開成
	岩 瀬	◎星田 弘美
	◎永瀬 功一	須賀川一
	石 川	◎芳賀 徹
	◎草野 正夫	石川
	田 村	◎有賀 仁一
	◎猪狩 仁三	引春
	東西しらかわ	◎菊池 篤志
	◎根本 秀一	白河一
	北 会 津	◎唐司 和彦
	◎石本 浩一	鶴城教
	耶 麻	◎伊藤 博子
	◎渡部 憲生	喜多方二
	◎神内 透	関柴
	◎冠木 誠	坂下東
	◎高橋 弘之	坂下南
	◎大桃 豊	田島
	◎午来 勝顕	旭田
	◎渡邊 義人	桜丘
	◎堀本 晋一郎	楠葉
	◎井戸川 浩	南野
	◎水野 達雄	広平
	◎林 和樹	中央台
	◎高野 淳一	東丘

(-助)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ◆大ホール・貸し会議室
●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 (教育関係者は半額)

福島市上浜町 10-38 office@kyouikuikaikan.jp
TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208

令和 2 年度 小学校長会事務局員名簿

◎部長・常任幹事 ○副部長

役 職 名	氏 名	勤務校
事 務 局 長	野 木 勝 弘	森 合
事 務 局 次 長	岩 下 聡	清 明
総 務 部	◎岩 下 聡	清 明
	○阿 部 貴 史	松 川
課題担当部	◎菅 野 信 幸	吉 井 田
経 理 部	◎本 多 充	北 沢 又
	○渡 邊 かほる	庭 塚
行 財 政 部	◎伏 見 珠 美	渡 利
	○伊 藤 勝 彦	荒 井
	古 田 幸 裕	矢 野 目
	阿 部 貴 史	松 川
	佐 藤 厚 生	青 木
	熊 坂 吉 徳	柱 沢
	紺 野 真 一	新 殿
研 究 部	◎渡 邊 浩 人	福 島 四
	○佐 藤 浩 昭	大 森
	鳴 原 浩 之	杉 妻
	渡 邊 裕 樹	蓬 萊 東
	蓬 田 孝 夫	月 輪
	栗 城 智 也	瀬 上
	渡 邊 かほる	庭 塚
	関 口 和 夫	大 久 保
	小 松 浩 行	富 田
	山 本 秀 和	附 属
生 徒 指 導 部	渡 邊 かおり	掛 田 根
	児 山 秀 典	掛 田 根
	◎三 浦 正 彦	大 笹 生
	○齋 藤 秀 樹	南 向 台
	佐 藤 和 暁	笹 谷
広 報 部	平久井 淳	余 目
	小 林 雄 雄	玉 井
	◎佐 藤 亮 治	福 島 二
	○松 野 光 伸	清 水
事 務 局	坂 本 眞 理	佐 原 坂
	吉 田 牧 子	庭 塚
	遠 藤 和 宏	半 田 釀 芳
	須 田 尊	(事 務 長)
	土 田 里 美	(主 事)

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、各学校は臨時休業や分散登校等を余儀なくされ、通常の教育活動ができない異常事態となっています。一日も早い感染の終息が望まれるところです。さて、東日本大震災及び原発事故から今年で10年目を迎えましたが、私たちは「学校は復興の最大の拠点である」との考えのもと、教育の充実に努力してまいりました。未だ避難生活を余儀なくされている方もおり、完全な復興に至ってはおりません。そうした中、今年の春、飯館村では避難地域で初となる義務教育学校「いいたて希望の里学園」の開校といううれしいニュースがありました。復興に向けた歩みがまた一歩確実に進んでいます。今回のコロナ禍といわれる国難に対しても皆さんで一致団結し力を合わせれば、必ず乗り越えられるものと信じています。こうした緊急事態にも拘わらず、玉稿をお寄せいただきました関係各位の皆様方に、心より感謝申し上げます。

- 発行 福島県小学校長会
〒960-8107 福島市浜田町 4 番16号 富士ビル 2 F
電話024(534)5411
会長 佐藤秀美 (福島市立福島第三小学校)
■編集 佐藤亮治・松野光伸・坂本眞理・吉田牧子・遠藤和宏
■印刷 有限会社吾妻印刷